

平成29年度 町社会福祉協議会との意見交換会 実施報告書

- 1 日 時 平成29年6月21日(水)
午後1時30分から午後3時8分まで
- 2 場 所 福祉センター3階会議室
- 3 参加者 町社会福祉協議会(11人)
- 4 出席者 議長 小島総一郎 副議長 熊坂 弘久
議員 井上 博明 議員 小倉 英嗣
議員 小林 敬子 議員 馬場 司
議員 山中 正樹 議員 井出 一己
議員 渡辺 基 議員 佐藤 茂
議員 木下眞樹子 議員 佐藤 りえ
議員 熊坂 崇徳 議員 鈴木 信一
議員 岸上 敦子 議員 阿部 隆之
(以上、16人)

5 内 容

- (1) 議会活動状況等報告
(ア) 議会の概要について
(イ) 各常任委員会活動状況報告について
- (2) 町社会福祉協議会活動状況等報告
(ア) 町社会福祉協議会の概要について
- (3) 意見交換

6 記 録

別紙のとおり

平成29年度 町社会福祉協議会との意見交換会 記録（要点筆記）

（司会：木下議員）

（１）議会活動状況等報告

ア 議会の概要について＜報告者：議長＞

イ 各常任委員会活動状況報告について

＜報告者：佐藤茂議員、小林議員＞

（２）町社会福祉協議会活動状況等報告

ア 町社会福祉協議会の概要について

（３）意見交換

【主な意見等】

問 観光拠点づくりは、半原・田代地区のみならず、愛川町全域の課題として町民の理解と議会の協力が不可欠と考えますが、議会の考えを伺います。

答 議会でも、この半原地域における観光・産業連携拠点づくり構想については、町全体の課題として捉えており、町民の理解はもちろんのこと、地域にかかわるさまざまな力を結集し、連携した取り組みが求められていると認識をしておりますので、今後の動向についても、引き続き、議会として注視をしていきたいと考えています。

問 観光拠点づくりに高齢者、子ども、障害者を対象とした福祉のまちづくりをどのように組み込んだらよいか。

答 建物等の整備に当たっては、神奈川県みんなのバリアフリー街づくり条例などを参考に、高齢者や障害者をはじめ、誰もが利用しやすいまちづくりをコンセプトに進めていくことが必要であると考えています。

問 少子化対策について

答 町では、少子高齢者の進展に伴う本格的な人口減少社会の到来により、平成28年3月に人口の現状と将来の展望を示す「愛川町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」、及び、これを踏まえた今後の5カ年の目標や具体的な施策などを示す「愛川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。また、平成28年12月議会において可決した「第5次愛川町総合計画後期基本計画」においては、妊娠・出産・育児の支援や子育て環境の充実を重点プロジェクトの一つとして掲げるなど、少子化対策についてもさまざまな施策が盛り込まれています。

議会におきましても、この総合戦略や後期基本計画の策定に当たっては、若者の交流から結婚に至るまでのサポートの推進や、妊婦が安心して医療機関で出産を迎えられるための支援施策についてなど、さまざまな意見、提案を行いました。特に、総合計画後期基本計画においては、特別委員会のほかに議会検討会を設置し、全議員による本計画の調査や議論を重ね、129項目の提言書及び意見書を町長に提出し、その多くが計画の中に盛り込まれました。

今後におきましても、少子高齢化の進展に的確に対応し人口減少に歯どめをかけ、将来にわたって活力ある愛川町を維持していくため、少子化対策についても、引き続き、一般質問などを通じて積極的に取り組んでいきたいと考えています。

問 議員は、個々の議員活動の中で提案をされる部分、あるいは議会全体として町側へ申し入れ等をされる部分とありますが、その提案等の取扱方法について

答 議員は、議員個人としての形と、その一方では、組織としての議会という形があるので、2つの側面があることは事実だろうと思います。しかし、議会としての申し入れ等であっても一般質問等において、議員個人の発言権を使って提案することは可能であると考えています。

問 今後の意見交換会においては、対象の団体ごとにテーマを設定するなど、双方の意見交換がしやすい形で行ったほうが良いと感じた。

答 各種団体との意見交換は、まだ3回目ということで試行錯誤のところがあります。今後におきましても、ご意見をいただきましたテーマを設定して意見交換を行う方法も視野に入れ、開催していきたいと考えています。

